



2017.6.16

競り合いビッドの秘訣

現代のブリッジでは半分以上のボードで競り合いが起きると考えられます。この競り合いビッドで、もう一つ競るのか、ダブるのか、パスするのか判断がつかないという声をよく聞きます。実際判断は難しいのですが、1 つ言えることは自分一人だけでは判断できないということです。パートナーシップこそが秘訣です。よりよい判断が出来るよう、パートナーがどれだけ正確な情報を伝えてくれたかに掛かっていると良いでしょう。正確な情報には①トランプフィットの具合②ディフェンシブトリック③セカンドスートフィットの具合があります。

例で考えて見ましょう。パートナーが 1 S オープンしました。すると 2 C オーバーコールを入れられます。でもフィットしました、

1 S - (2 C) - ?

今の多くの方はリミットレイズ以上、ということは絵札点で 10 点前後以上があれば、皆等しく 3 C とキュービッドするようです。でも次のハンドはサポートがあつて 10 点ですが

- a) ♠ Q102 b) ♠ Q1093 c) ♠ K1093
- ♥ KJ92 ♥ K62 ♥ 1098
- ♦ A1087 ♦ AJ95 ♦ AQJ108
- ♣ 95 ♣ 109 ♣ 5

これらみな同じように 3 C というのでしょうか？パートナーは 3 C を聞いただけでどうするか判断が正確に出来るわけがありません。特に

1 S - (2 C) - 3 C - (5 C) ?

となってきたときに (相手ノンバル、此方バルでは特にそうなりそうですが) パートナーの判断=ダブルするのか 5 S までがんばるのか分かれ目です。サポートの内容をもっと種類を増やさねばよい判断はできないことは明らかです。

a) と b) の違いはサポートの枚数です 5 - 4 フィットと 5 - 3 フィットでは大きな差があります。前者ではもしディフェンスした時にそのスートで取れることが期待できるのは 1 トリックですが後者なら 2 トリックでしょう (前者で 2 トリックになるのは (5-4-2-2) のときのみで、特に 5 C まで言われると 3-1 ブレークの可能性が高く 1 トリックでしょう) また 5-4 フィットではパンピングを受けるリスクが非常に減ります。経験的に言って 5-4 フィットは 5-3 フィットに比べてはるかにプレイがしやすいことはご存じのとおりだと思います

ます。c) はダイヤモンドという良いセカンドスートがあります。オープナーのハンドが次のような 13 点だったとして、5 C と言われた時に

- d) ♠ AJ765 e) ♠ A7654 f) ♠ AJ765 g) ♠ AJ765
- ♥ 87 ♥ A87 ♥ Q87 ♥ AQ87
- ♦ K95 ♦ K95 ♦ K95 ♦ 9
- ♣ KQ4 ♣ Q4 ♣ K4 ♣ Q43

どうするのがよいかは (もうここで判断しなければなりません)

	d	e	f	g
a	X	X	X	X
b	X	△	△	X
c	X	○	○	△

5 S と行って良いのは左の組み合わせ

	d	e	f	g
a	○	○	○	○
b	○	△	△	△
c	○	X	X	○

5 C X が良いのは左の組み合わせ

またパスするのはほとんどの場合よくありません。これを改善する方法にはまず 3 C キュービッドのほかに 2 NT をアーティフィシャルに使い 4 枚サポートのキュービッドとします (トラスコット 2 NT と同じ意味です)。それから c) の様なハンドは 4 D とジャンプしてサポートがあると同時に良いダイヤモンドを持つという意味に使用します (フィットジャンプと呼びます)。この 2 つを使うことでパートナーの判断は画期的に良くなります。特に e) や f) をオープナーが持っていたら a) と b) と c) の違いは歴然で、ずっとオープナーは判断しやすくなります。繰り返しになりますが、どこまで競るかの判断は、パートナーのサポート情報の正確さ次第ということです。逆に言うと正確なサポート情報をパートナーに伝えてパートナーに良い判断をしてもらうよう心掛けることが大事です。このサポートの種類を増やす方法については次回以降もう少し詳しく解説したいと思います。